

# 子どもの自己形成とクラスの関係形成の連関について

教育実践力高度化コース 18AD010

鈴木 勝也

【指導教員】 岩川直樹 安原輝彦 宇佐見香代

【キーワード】 自己形成 関係性 連関 関係的出来事

## 1. 課題設定

近年、日本では少子化が進んでおり、学校に通う子ども達の兄弟の数も少なくなり、子ども同士で関わる機会もSNSの普及により変化してきている。そして、学校の中では関係性の希薄化が問題視されている。本来、子ども達が生きる関係性はそれぞれの子どもの自己形成の重要な基盤になる。しかし、個人の能力のみに焦点を当てられがちな現代の教育状況の中では、個の変容の問題が関係や場の変容の問題から切り離されている傾向にある。

暉峻淑子(2017)によると、「バフチンによれば、西洋文化における対話の生みの親とも言われるプラトンは、学術書を書こうとはしませんでした。彼の役割は、答えを見いだすことではなく、対話を通して人びとがその後の思考や行動を支える新しい生き方を見だし、生み出すことでした。セニックラの解釈によれば、対話の思想は、対話的な関係から始まって生き方にいたる態度なのです。人と人との対話の中から得たるものは、私たちの行為の核心になります。対話をするとは、話し手がそこにいる相手とのやり取りの中で、応答の言葉を組み込みながら、自分の周囲の社会という場と絶えずつながっていることです。その中から、新しい理解と発達が生まれます。」とは述べられており、対話から自分自身そして周囲の人に影響を与え、理解が生まれると指摘している。私は、このことによって、子ども達の人格の形成には対話は必要なものであって、教師がそのことをしっかりと理解していないといけなと考えた。

一柳智紀(2017)によると、「知識基盤社会における授業では、単に多くの事実や手続きを覚えるだけでなく、学習する内容を自身の知識と結びつけたり、その原則を理解し、他者との対話を通してその理解を振り返り吟味するなど、深く学ぶことが不可欠とされている。そのためには、教師が一方的に教える知識伝達型の一斉授業から、学習者自身が異質な他者との協働の中で知識や技能を獲得し、実際に活用し、思考しながら学んでいく、協働的で探求的に学ぶ授業への変革が求められる。同時に、一部の子どもだけがこうした学びに従事するのではなく、教室にいるどの子にも課題に主体的に取り組み、思考することを保証することが求められている。このような授業の変革にあたり、各教科の学習内容だけではなく、グループによる学習などの学習形態、ICTの活用など新たな教材・道具の導入などが検討・実践されている。一方、そうした教える内容や方法

を変革したとしても、教室のコミュニケーションを変革することなしに学習者の学びは変わらないだろう。授業は教師と子ども、子どもと子どものコミュニケーションを中心に展開しており、コミュニケーションの形態が変われば、授業への参加のあり方も理解のあり方も変わる。授業をどのようなコミュニケーションの場とするか、子どもたちがどのような言葉をどのように用いる場とするかを考えることが、授業をデザインするうえで不可欠である。」と、学校でのコミュニケーションの必要性について述べている。また、授業でのコミュニケーションのありかたについても、ただ話す機会を設けるだけや、コミュニケーションスキルを付けるのではなく、子ども達の言葉を尊重することが重要であるとわかる。

## 2. 研究目的・考察

このように暉峻淑子(2017)、一柳智紀(2017)達は、対話、コミュニケーションについての重要性について述べている。

私は、子ども達の自己形成を支えるためには、対話によって関係性を築いていくことが重要だと考えた。つまり、より良い関係性を築くことによって子ども達の自己形成を支えることができるという理由である。

本研究は、その様な子どもの自己形成を支える教室の関係形成に関する探究をするために、Alexander M. Sidorkinの関係的出来事に着目する。そのことを1つの視点にしながらか実践事例の再構成を行っていきたいと思う。つまり本研究は、教室に生起するいくつかの関係的出来事を核としながらか、子どもの自己形成を支えることと、クラスの関係形成を築いていくことの連関を、実践事例を通して明らかにしていくことを課題としている。

子ども達一人一人の自己形成とクラスの関係形成の連関を意識することによって、子ども達の変容が明確になると考えたからである。

本研究は、小学校第四学年のクラスにおける実践事例を取り上げていき、子ども達の関係と変容について考察していく。

## 3. 視点と方法

Alexander M. Sidorkin(1999)は、ブーバーとバフチンの哲学に基づきながら、教育の場が対話的なものになること

の重要性を主張している。その際、教室や学校が対話的なものになっていく上で核になる出来事があると指摘し、教室や学校という場が対話的になるうえで重要なものを、「起源となる関係的出来事」(ORIGINAL RELATIONAL INCIDENT)と名付けている。そこで示された1つの関係的出来事の例を挙げる。

小学校の校長先生であるキャロルは、3回のフロアから飛び降り自殺を試みようとしている男の子の姿を見て、自分が校長として管理している学校の子どもでありながら自分はこの男の子の名も知らない声かけもできない自分を自覚した。校長でありながら助けることもできない自分が、何ができるのか、結局は教師達とコミュニケーションをとって、ともに対応しなければ解決はおぼつかないことに気付いた。つまりこの時キャロルは、自分自身と率直に向き合い、仲間の教師達と、コミュニケーションを拓いて、教師達の声を出し合える環境を築いていくことが校長の仕事であり、大切な役割であることに気付いた。と述べられている。

教室としての場でも、一つ一つの関係的出来事を分かち合うことを通して、一人一人の子どもの自己形成と場の関係形成する場面があると考えられる。

このように本研究ではシドーキンの関係的出来事という概念を用いながら、クラスの関係の変容過程を記述し、同時に、そこでの関係的出来事を通して、一人一人の子どもにどのような変容が生まれることになったのかに視点を置いた研究を進めたい。

#### 4. 関係的出来事を含めた記述の意義

学習指導要領の目指す姿として、社会に開かれた教育課程を実現するために資質・能力を重要視することとなった。文部科学省(2015)によると育成すべき資質・能力として、何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)が求められる。

また、文部科学省(2015)によると「学習指導要領をつくるにあたって、学習プロセス等の重要性を踏まえた検討の中に、対話を通じて他者の考え方を吟味し取り込み、自分の考え方の適用範囲を広げることを通じて、人間性を豊かなものへと育むことが極めて重要である。」と記載されている。

以上のことから子ども達の対話の重要性がわかる。

しかし、子どもの対話は、授業をする中の手段の1つだけではなく、学校生活全てを通して重要なことであると私は考える。そのためにも、学校生活全体を通じた対話の仕方記録する必要がある。

そして、関係的出来事を通じて対話を捉えることによって、子ども達一人一人の自己形成とクラスの関係形成が育

まれていく様子が明確になると考えられる。

子ども達一人一人の自己形成や教師が子ども達に、どう向きあってきたかという記録は、何に喜び、何に苦しんでいるのかなど様々な子どもの姿がわかることになる。授業だけではわからない子ども達の背景を理解することにも繋がる。

従って、関係的出来事を含めた記述は重要なことである。

#### 5. 記述の仕方

クラスの中の3人を中心に、教育実践のプロセス、関係的出来事、個の変容、クラスの関係形成、教師の役割を関連させて記述、再構成していく。3人の関係的出来事を記述し、関係的出来事を通じた個の変容とクラスの関係形成の連関を、3人の成長の時系列に従って記述していく。

そして、関係的出来事を「大きな関係的出来事」と「小さな関係的出来事」の2つに分けて記述していく。本研究で書かれている大きな関係的出来事とは、クラス規模の関係的出来事。小さな関係的出来事は、クラス規模より少ない2人、3人からなる関係的出来事のことを指す。

関係的出来事を2つに分けた理由は3つある。

1つ目は、子ども達の変容は、1つの関係的出来事だけで起こるものではなく、関係的出来事の積み重ねで変容していくものだと考えたからである。

2つ目は、子ども達の変容や関係性は、表には出ないがしっかり子ども達の中には響いていることがある。また、その時はわからなくても段々と理解することなどがあるため。

3つ目は、一人一人の変容とクラスの関係形成の繋がりを明らかにしたいと考えたからである。

従って、子ども達の変容やクラスの関係形成を明確にするために、小さな関係的出来事と大きな関係的出来事の2つに分けて記述する。

従って、シドーキンの言う、起源となる関係的出来事のような「大きな関係的出来事」に注目するだけでなく、相前後する複数の「小さな関係的出来事」等の意味連関に着目して記述していく。

図1

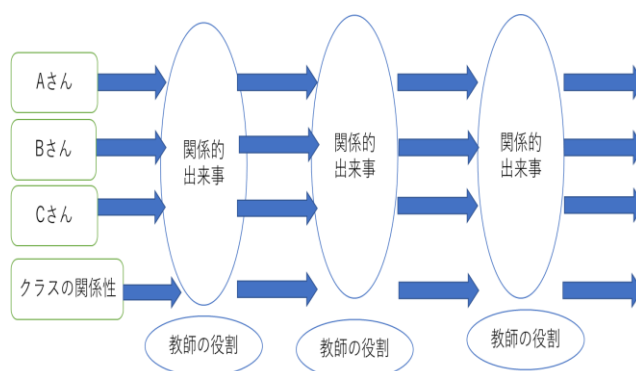
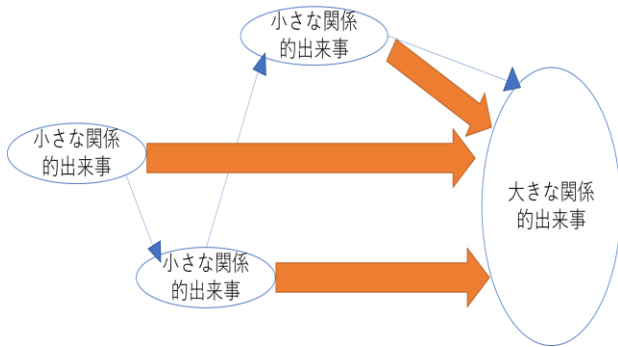


図 2



## 6. 関係的出来事を通じた3人の記録

### 1. ケンジさん（仮名）の変容とクラスの関係形成について

#### 1. 1 学校の第一印象

4月の中旬に初めて〇〇〇小学校を訪れて、新しく綺麗で大きな学校だと感じた。オープンスペースがあり、子ども達が伸び伸びと遊んでいる姿が印象的であった。また、廊下を歩いていると積極的に子ども達が挨拶をし、教師も子どもに対して、積極的に挨拶をしていた。また、学校を歩いていると、子ども、学校関係者、地域の方達が話かけてくださり、温かい学校だと感じた。

#### 1. 2 クラスの第一印象

4年〇組に入ると、笑顔と笑い声で溢れていた。担任の先生の周りにはいつも子ども達の姿があり、とても雰囲気の良いクラスだと感じた。

#### 1. 3 クラスの方針

みんなで認め合うクラスにすることがクラスの方針。また、自分を傷つけることと相手を傷つけることは許さないと子ども達に担任の先生が提示していた。

私は、クラスにいる一人一人が認め合うことができることによって、教室が安心できる場になると考えた。そして、お互いを認め合うことによって、自分一人では気付くことができなかったものに出会えると考えた。そして、自分と相手を大切にすることについては、みんなが認め合うクラスにするためには重要なことだと感じた。相手を傷つけないようにするために、相手に関心と尊敬の気持ちがないと成立しないと私は考えた。また、自分を傷つけないようにすることによって、子ども達が、なげやりになった自分をふと我に返すことができるおまじないになると感じた。

### 1. 4 ケンジさんとの出会い（①小さな関係的出来事）

最初に印象に残ったのはケンジさんだ。クラスに入って担任の先生から障害のことについて話を伺った。また、その時、気持ちが落ち着いていない時は、そっとしておいてあげてと伝えられた。

4年〇組に入った初日の朝に、クラス全体に自己紹介をした。その後、個人的に一人一人と自己紹介をした。理由は、クラス全員の名前を早く覚えたかったのと、これから一緒に過ごす子ども達とコミュニケーションを取り、信頼関係を築きたかったからである。

ケンジさんの所に、自己紹介をしに行った。自分の名前を言い、ネームプレートで名前を見せた。そして「これからよろしくね。」と伝えた。すると、沈黙があり周りにいた子ども達が「ケンジさんも名前を言うんだよ。」と言った。また少しの沈黙があり、ケンジさんは小さく何かを発した。その後、私の目の前で空手の突きの様なことをし、次に蹴りをしはじめていたら途中でケンジさんの足が私にかすった。周りにいた子ども達は少し驚いていたが、その時のケンジさんの顔は、申し訳なさそうな顔をしていた。私は、ケンジさんは悪意をもって蹴ろうとしたのではないと感じた。周りは「ケンジさーん。」と言い、何をしてるのという様な雰囲気になっていたので私は、「ケンジさんは、先生に自己紹介で空手の技を見せてくれたんでしょ。」と言ってその場は終わった。

その後、ケンジさんは、人前で自分が話したい内容以外のことを話す事が苦手だと知った。子ども達が近くにいる中で、初めて会う私と話すことが嫌だったのだと私は考えた。

それからというものケンジさんとの関わりを考えるようになった。

### 1. 5 ケンジさん4月の様子

ケンジさんは、基本的に自分の好きな授業以外は席には座らない。クラスが見える近くのオープンスペースで、本を読んだりロッカーの中に入ったり、壁と壁との隙間に挟まっていたりしている。休み時間は、1人であることが多いように、私には見えた。

私には、ケンジさんはクラスのみんから少し離れたところにいるが、いつもクラスと繋がっているように見えた。一人で本を読んでいるが、私や、担任の先生がケンジさんの方を向くと目が合うことが多い。いつもクラスの様子を伺っているのだ。本を読んでいたが、でもクラスのことも気になるという状況に今はあるのかと私は考えた。

### 1. 6 ケンジさんに対するクラスの4月の様子

クラスメイトは、席に着いていなくても「ケンジさん早く席に座りなよ。」や「先生、ケンジさんだけ本を読んでいます。」などとは言わない。むしろケンジさんが教室に戻ってきたら「おっケンジさん来た。」と受け入れている。稀に授業中にケンジさんが近くで大きな音をたててもケン

ジさんを注意する子はほとんどいない。だが、授業の進行を妨げる行為や危険な行為をしようとする担任の先生が止めに入っていた。

基本的にみんなケンジさんに対して寛容だ。担任の先生も子ども達も、ケンジさんを無視しているのではなく、先生も授業のあいまにケンジさんの様子をこまめに確認している。授業中や休み時間にケンジさんが読んでいる本に対して話をしていたりしている。

私は、いいクラスだなと感じた。私の経験からクラスでの基本的な行動に則らない自由な行動をしていると周りから注意を受け、それを原因に揉める光景を経験してきたからである。

### 1. 7 ケンジさんに対する担当の先生の考え

なぜ、ケンジさんに対してクラスが寛容なのか、担任の先生に話を伺った。それは、以下のような話である。

担任の先生はどんな食べ物が好きかと、子ども達に尋ねた。すると、みないろいろな食べ物を挙げた。同じ人もいたかもしれないが、みんな一人一人違うという事を話した。そして食べ物以外でも、成長の早さも、一人一人違うのだと話を続けた。みんな少しずつ違う。今、ケンジさんは、みんなと一緒に勉強することを、学んでいる。誰かが頑張ろうとしていることをみんなはどう思うか尋ねると、子ども達は応援すると答えた。だからみんなも応援してねと。

ここに、担任の先生が考えるクラスの方針が示されている。それは、みんなで認め合うことを大切にすることだ。これは悪いことを許すのではなく、人間のもつ個性を認め合うということだ。

しかし、まだ新学期ということもあり、クラスにいる全員の良さを理解できていないことや、引き出せていないことを担任の先生は考えていた。それゆえ子ども達に助けてもらおうと考えていた。教師だけでは気付かない良さを子ども達同士で引き出し合い、どの子も主役になれるクラスになるためには、人の良い所を見つけれられる子は、多くの人に自分の良い所をわかってもらえるはず。従って、「頑張っているね。」「素敵だね。」「いいね。」等の認める言葉を、教師がたくさん発することで、子ども達の視点を粗探しではなく、良いところ探しに変わると担任の先生は、考えていた。

クラスがケンジさんに対して寛容な理由を知り担任の先生とクラスの子も達信頼しているのだと感じた。そして、ケンジさんを通して、クラスみんなが変わることができたのではないかと感じた。

### 1. 8 担当の先生の学級経営について

担当の先生は、1学期では特にクラスの子も達との関係性を築くことを大切にしていた。

理由としては、教師と子どもの関係性が上手くできてい

ない状態で、指示や注意を受けても、言葉が響かない恐れがあるからだ。逆に、むかつくと受け取ってしまう場合もある。しかし、信頼関係を築いた後に、注意をしたら響くし、関係も悪化しない。また真剣に耳を傾けてくれるからだと言っていた。

まず先生とケンジさんとの信頼関係を築き、ケンジさんとクラスの子達の信頼関係を築くことに力を注いでいた。

そして、ケンジさんをはじめ、クラスの子も達安心して心を開ける関係を目指していた。

そのために、クラスのみんなで関わりをもつ機会を意図的につくっていた。しかし、一緒に遊ぶことや関わることを指示としては出していなかった。

私が考えるに、教師が色々と指示を出したところで、子ども達は教師に言われたからやるようになる。つまり、教師の指示を待つ受け身な姿勢になってしまう。自分たちで、一緒に遊ぶことの楽しさや関わりを通して得る喜びを自分たちが主体的に経験することに意味があるのではないかと、考えた。

担任の先生は、1学期の間に、子ども達が、自分の頭で考えて行動できるようにする基盤を育てたいと仰っていた。

自分たちで考えて行動ができるようになったら、善悪の判断や相手の気持ちを理解することにも繋がる。もし困っている子がいたらどうすればよいのか、クラスが楽しくするにはどうすればいいのかなど、教師がいない時でも判断できるようになってくる。教師1人ではどうしても行き届かないところを、子ども達同士で支え合うことができると私は考える。そして、この様なクラスの関係をつくるには、相手と自分を大切にすることが重要なのだと理解した。

### 1. 9 担当の先生のケンジさんへの対応の変化 (②小さな関係的出来事)

ケンジさんも徐々にクラスでみんなと一緒にできることを増やしていく必要がある。その1つとして、できる範囲で授業と一緒に受けられるようにすることが目標だ。

ケンジさんは、本を読んでいるだけでいいわけではない。それではケンジさんの成長を止めてしまうからである。また、進級し違う先生になった時に通用しない可能性がある。少しでも自分のできることを増やしていくために、5月下旬からできることを1つずつ増やしていくこととなった。

私は、教室になかなか入れない子に対してそのまま大丈夫と言うだけが優しさではなく、その子ができるように関わるのが本当の優しさなのだと知った。そのままでもいいとしたら、それ以上の成長に蓋をしてしまうが、できないかもしれないが取り組むことには意味がある。そして、この時期から、ケンジさんが私に頼ってきても見守るようと先生から指示がでた。

担任の先生は、ケンジさんに、以下のような話をした。

「ケンジさんは、誕生日でもないのに弟だけにゲームを買ってもらっていたらどう思う。」と尋ねたら、「ムカつく」と答えた。担任の先生は「なんの記念日でもなければ、なにか頑張ったわけでもないのにね。」と続けた。なにか頑張ったりしたら貰えるよね。なにもやらないで楽しいことだけするのは違うよね。ケンジさんだけ、自分の楽しいことだけやって、それ以外はやらないでいたら周りの子達は どう思う。

この様な、担任の先生とケンジさんのやり取りによって、ケンジさんは、自分で考えて、少しずつ授業に出てみよう と考えるようになった。

この時に私は、担任の先生がなぜみんなが認め合うクラスしようとしたのか理解したことがある。ケンジさんがクラスに慣れていないと、教室には入って行けない。クラスのみんがケンジさんを受け止めていなかったら、ケンジさんは教室に入れない。ケンジさんが教室に入りやすくするためには、ケンジさんとクラスの間を築いている必要がある。それゆえ、みんなで関わることを大切にしていたのだと気付いた。

### 1. 10 ケンジさんの変容

今までは自分のやりたいことを中心に行い、何かあったらすぐに担任の先生か私を頼っていたが、自分一人であることを、少しずつ自分で行うようになっていった。担任の先生も私も、ケンジさんだけの教師ではない。ケンジさんのためにも、少しずつできる範囲で挑戦していく必要がある。

対応が少しずつ変わっていくと、「もうやだ」、「嫌い」と言うこともあったが、先生はケンジさんと正面から向き合っていた。また、保護者との連携をしていたことや、4月からしっかり関係を築こうとしていたので、ケンジさんが注意を受けても、不機嫌になって関係が悪化することではなく、次の日には先生と楽しそうに話をしていた。

対応の変化によって、ケンジさんは少しずつ席に座って授業を受けることが多くなった。

ケンジさんが教室で授業を一緒に受ける機会が増えるにつれて、クラスの雰囲気が変わった。また、ケンジさんがわからないことを近くの子が教える事から、いつもよりクラスが優しくなれている様に感じた。

### 1. 11 ケンジさんに対するクラスの変化 (③小さな関係的出来事)

クラスの子はケンジさんに対して4月の頃から寛容だ。だが、それは何とも思っていないとしたら違うと思う。その事に担任の先生は気づいていた。

私はクラスの子ども達は、ケンジさんを認めていて、いい子達だなと単純に感じていたがそれは表面的なものだった。

ケンジさんをクラス全体が優しく接していた反面、ケン

ジさんは、少しなにをやってもいい雰囲気になっていた。このままだとケンジさんのわがままな行動によって、我慢している子どもがいると考えたからである。そして、このままだとケンジさんもクラスの子達から嫌われてしまう事に繋がる。

ケンジさんの影響もあり、クラスの関係性は認め合うようにならなくなっていった。だがケンジさんは、相手を大切にすることを、クラスでの関わりが他のクラスメイトと比べると少ないぶん、まだ理解ができていない部分があるのかと私は感じた。

### 1. 12 ケンジさんとクラスメイト (大きな関係的出来事)

5月の下旬、音楽の授業があった。授業内容は、色々な楽器を使ってグループで演奏を行うというものだ。

ケンジさんのグループにいたトモコさん(仮名)が演奏するはずであった楽器を、ケンジさんがやりたいと言った。すでに決まっていた楽器だったのだが、ジャンケンで決めることとなった。すると、ケンジさんが勝ち本来その楽器を演奏するはずであったトモコさんが、その後泣いてしまった。

音楽の担当の先生から話を聞いていた担任の先生が、ケンジさんと以下の様な話をした。

担任の先生が、何があったのかケンジさんに尋ねると、ケンジさんが「楽器を戻したらいいんですよ。」と言った。担当の先生は、「楽器を戻しただけで、トモコさんの心まで戻るの。」と尋ねた。すると、「戻らない。」と答えた。そして、トモコさんに謝ると言った。

担任の先生は、相手を傷つけることは許さないと、ケンジさんだからといって特別扱いせずしっかりと注意をしていた。

ケンジさんは、トモコさんのもとに行き、謝り、和解した。

クラスの子どもは直接ケンジさんが先生と話をしているところは見ていないが、2人の姿が見えないことと、音楽の授業のことを知っているの、ケンジさんが担任の先生から注意を受けていることをクラスにいる子は知っている。

クラスの子ども達は、今回のように問題として取り上げられていないが、今までにケンジさんのことを思っ言えなかった言葉があったはずだ。いつの間にかケンジさんを特別扱いにすることが普通になっていた。クラスの子ども達の中で、ケンジさんに対してモヤモヤと感じていた感情を、担当の先生がケンジさんに注意をすることによって、少し晴れたのではないかと考える。このままではケンジさんは、クラスの子ども達から嫌われてしまっていたかもしれない。また、ケンジさんの相手の気持ちを考えるという自己形成の機会を奪ってしまう。

この関係的な出来事は、ケンジさん、そしてケンジさん

との関わり、クラスのケンジさんに対する見方が変わった機会だと私は考える。

注意を受けた後も、ふてくされるわけではなかった。4月のうちから築いていた関係性もあるので、ケンジさんには響いていた。

トモコさんに謝った後のケンジさんは気持ちが落ち込んでいた。その後の授業もケンジさんと同じ班にトモコさんがいることからの気まずさか。周りの子ども達に対してよそよそしくなっていた。周りの子ども達もケンジさんにどう接すればいいのか困っていた。授業が早く終わったので、残りの時間で、空き教室を使ってクラスみんなで体を動かして遊んだ。自然とクラスの雰囲気も良くなり、ケンジさんも一緒に体を動かした。

担当の先生は、ギスギスした状態で家に返してしまっただけで、次の日学校にケンジさんが来られなくなってしまうと考えた事だった。反省する時間をもたせることは大切だが、そのまま子どもをケアすることなく反省させ続けるのは苦と判断してのことだった。

また、ケンジさんがクラスを外している時に、担任の先生が、今まで我慢をさせる思いをさせてごめんねと話した。ケンジさんだとしても、クラスの誰かが嫌な思いをしたら先生は注意するから。もしあったら教えてねと伝えていた。トモコさんやクラスの子達のケアを行っていた。

私は、ケンジさんとトモコさんの関係的出来事を通して、クラスメイトのケンジさんに対する見え方が変わったと考える。今までは、どこかケンジさんに対して本音を言えずに表面的な関わりであったと考えられる。しかし、今回の関係的出来事を通して、クラス一人一人の変容に繋がったと感じる。また、ケンジさんとトモコさんも自己形成に繋がったと考えられる。

### 1. 1.3 大きな関係的出来事後のケンジさんとクラスメイト (④小さな関係的出来事)

一学期の終わりに、爆弾ゲームを行った。音楽が流れ終わった後に最後にボールをもっていた人が、一学期楽しかった思い出を言うというルールだ。ケンジさんのところで止まった。4月の頃は、自分が話したい内容以外を人前で話すことを苦手としていたが、しっかり話した。周りにいた子は「すごい」と拍手が鳴り響いた。みんながケンジさんの少しずつできるようになっている姿をみんな知っているからである。

また今までだったら、ケンジさんに罰ゲームにならないように遠慮していた子達も、遠慮せずケンジさんと遊んでいた。音楽を止めていたサクラコさん(仮名)に話を聞いたら、ケンジさんの言葉を聞いたかったからケンジさんのところで音楽を止めたと言っていた。

私は、ケンジさんが自己形成をすることによって、クラスの関係が変わっていく。クラスの関係がケンジさんに影響を与える相互作用で育まれていく姿を目の当たりにした。1人ではなく、みんなが変わり成長していくものなの

で、自己形成とクラスの関係形成は連関してとらえることが大切だと考えた。

## 2. ダイジロウさん(仮名)の変容とクラスの関係形成について

### 2.1 ダイジロウさんの第一印象

どこか不安げで、喋っている時は、俯き気味に話をしている様子が印象的だった。

最初は、私に話しているのに、ぼやくように話をする。私に話をしているのは知っているから話ができるが、周りの子との話をしている姿を見ていると、周りの子に対して話しかけているが、ぼやいて話しているからか、気付かれていないことがあった。

クラス替えをしたこともあり、まだ自分が安心できる関係が築けていないのと、初めて関わる子もいるので緊張しているのだと感じた。

### 2.2 ダイジロウさんに対する4月のクラスの様子

新学期ということもあって、まだお互い休み時間に遊ぶ友達というのは確立されていない。ダイジロウさんもいろいろな遊びのグループに参加しているが、周りの子を積極的に遊びに誘う事や、話しかける姿はあまり見かけなかった。

私は、ダイジロウさんが、一緒にいて楽しいと思える場所を見極めているのではないかと考えた。

### 2.3 ダイジロウさんの変容 (①小さな関係的出来事)

ゴールデンウィーク明けにダイジロウさんを見かけたら、表情が明るく変わっていた。そして遊びにも積極的に声をかけていた。あまりの変わりようにダイジロウさんに興味を抱き、ダイジロウさんに、ゴールデンウィーク何か楽しいことあったのか尋ねてみた。すると、サッカークラブでのバーベキューが楽しかったと、その時の思い出を思い返したかの様な笑顔で答えてくれた。聞くところによると、クラスにもそのサッカークラブのメンバーがいるらしく、仲良くなれたことが嬉しかったと教えてくれた。

私は、安心できる居場所ができた事と、仲良くなれたという自信によって、ダイジロウさんの変容が生まれたと考える。そして、ダイジロウさんが積極的に話すようになって、クラスの子にも影響を与えたのではないかと考えた。

### 2.4 ダイジロウさんとクラスの関係性 (②小さな関係的出来事)

ゴールデンウィークでの経験から徐々に、ダイジロウさんは、サッカークラブの仲良くなれた子以外にも輪を拡げていった。

ダイジロウさんは、今までは、新学期でクラス替えをし

たということもあって、クラスに対する不安があるように見えた。だが、クラスに安心できる居場所ができてから、徐々に関係の輪が広がっていった。

4月の頃は、自分の安心できる居場所を探して、色々な友達のところに行っていたが、1つ安心できる居場所を見つけると、新しい友達が見えてくるのだと私は感じた。

また、私はクラスの関係性がケンジさんなど、子ども達一人一人の关系的出来事によって、変容したことも要因だと考える。

## 2. 5 ダイジロウさんとクラスメイト (大きな关系的出来事)

7月上旬、ダイジロウさんが前日に欠席をしていて、1時間目の始める前に1人テストを行うことを担任の先生から伝えられた。すると、周りの子達から「頑張れ、頑張れ」と手拍子にのせて応援をしてもらっていた。ダイジロウさんは、照れくさそうに笑っていた。

4月の頃は、ダイジロウさんが話しても気づかれていなかった関わりも、自分が安心できる居場所を見つけたという关系的出来事によって、ダイジロウさんのクラスの子も達への関わりが変化した。遊びを通してダイジロウさんと関わっていた子ども達もダイジロウさんへの見方が変わっていった。そして、4月からの子も達の間で築いていったクラスの関係性が、ダイジロウさんを応援するというかたちで繋がったのだと私は考えた。

## 3. ヒロノブさん (仮名) の変容とクラスの関係形成について

### 3. 1 ヒロノブさんの第一印象

ヒロノブさんと、私の座席の場所は近接していた。それゆえ接する機会が早かった。4月上旬は、授業中にたまにこちら側を振り向いて、また戻る。その様なことが繰り返して行われていた。

私に興味があるのかと思い、休み時間に喋りかけ、よく話すようになった。

また、一緒に休み時間に遊ぶととても明いと感じた。

### 3. 2 4月のヒロノブさんとクラスの関係性

クラスのみんが問題に取り組んでいる時に、ヒロノブさんが悩み、わからないというように頭を抱えていたので近づいた。「わかんない。」と言うので場所を尋ねると、指で場所を示した。そして私はアドバイスをした。すると、「もういい。」と手でふられた。

別の機会に、ヒロノブさんが先に問題を解いていると、近くのまだできていない子に、「まだできていないの。」「この問題簡単。」と、言っている姿を見かけた。

恐らく、問題が解けた時や、できる時は、周りから良く

思われたくて言っているのではないかと私は考えた。

私の考えでは、問題がわからない時に私から指導を受けている姿を他の子達に見られると、自分ではできない人だと周りに認知されてしまうことを恐れたゆえの行動だと考えた。

問題がわからずに困っている子に指導する場合は、周りから、その子が感じている見方をもう少し意識すべきだったと反省した。私は、ダイジロウさんは今、勉強ができる、できないかで判断される見方の中にいるのではないかと考えられる。

### 3. 3 6月のヒロノブさんとクラスの関係性 (大きな关系的出来事)

6月に入ってから、ヒロノブさんも、そして周りの子ども達も、勉強ができるかできないかで判断している傾向にあるように私には見えた。

6月中旬、ヒロノブさんのテストの点数を見た子どもが、周りにいた子ども達にヒロノブさんの点数を言いふらしていた。ヒロノブさんは気がついていなかった。だが、担任の先生が気づき、言いふらしていた子をクラス全体の前で指導をした。

担当の先生はその後、以下のような話をした。

自分に自信のない人が悪口を言う。みんな自信のあるものを手に入れたい。しかし、それがかなわない時に周りの人達に悪口を言い、ダメージを与えることによって自分が優位に立ちとうとする。こうなると言われた人も悪口を言い返すことになり、結果として全員がダメになってしまう。しかし、自分を律し、自分に打ち勝とうとしている人の周りには同じ様に自分を磨いていこうとする人が集まる。そして、友達の頑張りを心から喜び、刺激を受け、自分も負けてたまるかと努力し始める。このことを切磋琢磨と言う。

これ以降、テストの点数を勝手に見て言いふらすことは無くなった。また、勉強ができる、できないという比べ合いをする見方も減っていった。私は、これからクラスの子も達も相手を傷つけるのではなく互いに切磋琢磨して高め合うようになればと感じた。

しかし、ケンジさんとの関わりを通して、クラスが少しずつ認め合うクラスになっていったのに、なぜこのタイミングで、相手を傷つけることが起きたのか疑問に思った。その時、担任の先生が4月に仰っていた、子ども達を、自分の頭で考えて行動できるようにしたいという言葉思い出した。まだ1学期という事もあって、認め合う事や、相手を大切にすることも、周りが行っているから自分もやるといった考えの子もまだいるのではないかと私は考えた。従って、今回の様な相手を傷つけてしまう事が起こってしまったのだと思う。

そして、今回の关系的出来事を通して、ヒロノブさん達にも考え変容する機会となり、クラス全体で変わっていき

うとした出来事だったと私は考える。

私は、ヒロノブさんやテストを言いふらしてしまった子も、周りからどう思われているのかに過敏になっていたのだと考えられる。また、他にも周りの目を気にして生活をしてきた子もいるはずだ。今回の関係的出来事で、認め合うという事と相手の良いところを探していくということをクラスで再認識することとなったと考えられる。

### 3. 4 ヒロノブさんの変容

6月下旬頃から、ヒロノブさんがケンジさんと一緒に遊ぶようになっていた。そして、ヒロノブさんはケンジさん以外にも遊んでいる子が増えていた。

4月の頃は遊んでいなかった者同士だが、2か月近くともに過ごしていくうちに一緒に遊ぶ仲になっていた。一緒に過ごしているから、直接的な関わりは少ないが、様々な関係的出来事を通して近づけたのであると私は考える。

4月から6月に移る間に、ヒロノブさんもケンジさんも自己形成を繰り返し、クラスの関係性を変えていったのだと私は考える。

## 7. 結論・考察

### (1) 関係的出来事とクラスの関係形成

クラスの関係形成は様々な出来事、特に核となる出来事によって起こる。例えば子ども同士がお互いに誤解したために相手と争いが起き、その誤解を解くために当事者同士、当事者と教師、周りの子ども達と当事者が対話、コミュニケーションを行う中で関係形成が行われる出来事だ。関係的出来事が、人と人と、そしてクラスを対話的なものにし、子ども達の成長や変容に影響を与えることが明らかになった。

### (2) 個の変容とクラスの関係性形成

関係的出来事によって個は変容するが、それは個だけではなく、その出来事を見ていた人や、一緒に経験した人、クラスに影響を与え、成長していく。つまり、人と人との関係性によって得る成長があることがわかった。

今回は、クラスの3人から、個の変容とクラスの関係形成を関係的出来事を通して見てきた。だが実際は、クラス全体の子も達も、学校生活全般を通して関係性を織りなすものなので、本研究では、全ての個の変容、クラスの関係形成ではない。しかし、3人から見たクラスの姿からも、わかる個の変容が与えるクラスの影響というものがあり、このことが連関して作り上げていることが明らかにされた。

### (3) 教師の役割

子ども達一人一人の個の変容、関係的出来事、クラスの関係形成を理解するためには、子どもを表面的な部分だけで判断をせずに、相手に関心を寄せることが重要である。

言葉や作品、行動、表情など様々である。そして、自分の価値観だけで判断をしない。子ども達も、自分の考えや思いを語れるような環境を整えることが重要である。また、子ども達同士の想いを教師が繋げることも大切であるとわかった。

個の変容とクラスの関係形成を教師が支えることによって、子どもたちの自己形成を支えることに繋がる。そして、子どもたち一人一人の新しい一面に出会えることができると私は考えた。子ども達の新しい一面を積み重ねていくことによって、子どもの姿がより鮮明に見えていき、クラスが成長していくのではないかと考えた。

また、1つの関係的出来事をきっかけに子ども達も変容するのではなく、その過程となる関係的出来事が、影響していることが明らかになった。

つまり、子ども達の変容の場面を切り取って、判断をするのではなく、1つの物語の様に、変容の場面の前後を見ていくことによって、子ども達の変容の姿がより見えてくることが明らかとなった。

## 8. 主な参考・引用資料

暉峻淑子 (2017) 『対話する社会へ』 岩波新書 121 頁

一柳智紀 (2017) 「教室のコミュニケーションから見る授業変革」 『学びとカリキュラム』 (秋田喜代美編) 岩波書店 46-47 頁

Alexander M. Sidorkin (1999) *BEYOND DISCOURSE — Education, the self, and Dialogue* State University of New York Press

文部科学省 (2015) 新しい指導要領が目指す姿

[www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm)